SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

First Semester of ABP undergraduate program(6th batch)(VIII Asia Bridge Program)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 良造, 佐川, 祥予 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028611

Ⅷ　アジアブリッジプログラム（ABP）

初学期教育（第６期生）

静岡キャンパス担当：佐々木良造

浜松キャンパス担当：佐川　祥予

１．コースの概要と目標

アジアブリッジプログラム（以下、ABP）は平成27年（2015年）度に始まり、インド、インドネシア、タイ、ベトナム、ミャンマー、５か国からの留学生を対象としたグローバル人材育成プログラムである。ABPの留学生は10月に入学し、最初の半年間で日本語科目と文系基礎科目あるいは理系基礎科目の集中教育を受ける。この半年間を「初学期教育」と呼んでいる。その後３年半、所属学部で学び、計４年間で学士課程を修める。

初学期教育は、基礎日本語科目10科目および文系基礎科目（「日本の社会」、「日本の歴史」、「日本の地理」、「日本の政治」、「日本の経済」）または理系基礎科目（「基礎数学」、「基礎物理学」、「基礎化学」、「基礎生物学」、「基礎統計学」）の計10科目から、留学生の所属学部の必修または選択必修科目を３科目ないし４科目受講し、計13～14科目を受講する。なお、初学期教育期間に取得した単位は、卒業単位として認定される。

ABP基礎日本語の10科目は、大学で学ぶにあたって求められる日本語能力、いわゆる「アカデミックジャパニーズ」の涵養が主たる目標であるが、初学期教育を受講する学生の日本語能力を考慮し、アカデミックジャパニーズの基礎となる言語知識（文法・語彙）を補いつつ、レポート作成、プレゼンテーション、新書講読などの言語活動を授業に取り入れている。

ABP文系基礎科目および理系基礎科目の教授言語は日本語である。翌年４月からの大学１年前期の授業に備え、日本の高校卒業レベルの基礎学力を身につけることを目標としている。

初学期教育は、静岡大学の学事暦の後期に開講されており、試験期間を含め、令和２年10月１日から令和３年２月10日まで行われた。

２．静岡キャンパスにおける初学期教育について

２．１　受 講 生

ABP第６期（静岡キャンパス）の入学者は10名であった。所属学部は以下のとおりである。

人文社会学部・言語文化学科－ １名　　人文社会学部・経済学科－ ３名
人文社会学部・社会学科－ １名　　人文社会学部・法学科－ １名
理学部・数学科－ １名　　理学部・生物学科－ １名
情報学部・行動情報学科－ ２名

出身国別では、ベトナム９名、インドネシア１名であった。

２．２　新型コロナウイルス感染拡大による渡日遅れの受講生への対応

新型コロナウイルス感染拡大により、授業開始の10月１日までに渡日できない受講生が３名（在ベトナム２名、在インドネシア１名）いた。３名の受講生は、

(a) Zoomによる双方向オンライン授業

(b) 静岡キャンパスで行われる授業をZoomで同時配信するハイフレックス型授業

(c) 教員は課題・課題説明等をEmailで送り、受講生は課題の期日までの任意の時間で学習をすすめるオンデマンド授業とZoomによる双方向オンライン授業の組み合わせ

のいずれかの方法で受講した。以下、「オンライン授業」という言葉を、かぎ括弧を付さずに(a)から(c)の総称として用いる。

３名は自国の日本大使館から留学ビザの発給を受け次第、渡日した。渡日後14日間の隔離期間もオンライン授業を受講し、来静後、対面授業に合流した。

２．３　時 間 割

2020年度後学期の時間割は、静岡キャンパスでの対面授業の時間割と、オンライン授業の時間割と２つの時間割を組んだ。表１に対面授業の時間割を示す。

表１　対面授業の時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１・２時限 8:40−10:10	ABP 基礎日本語Ⅰ	ABP 基礎日本語Ⅱ	ABP 基礎日本語Ⅲ	ABP 基礎日本語Ⅳ	ABP 基礎日本語Ⅴ
３・４時限 10:20−11:50	ABP 基礎日本語Ⅵ	ABP 基礎日本語Ⅶ	ABP 基礎日本語Ⅷ	ABP 基礎日本語Ⅸ	ABP 基礎日本語Ⅹ
５・６時限 12:45−14:15	ABP基礎科目 日本の経済	ABP基礎科目 基礎生物学	ABP基礎科目 基礎統計学		ABP基礎科目 日本の政治
７・８時限 14:25−15:55	ABP基礎科目 日本の社会	ABP基礎科目 基礎化学	ABP基礎科目 基礎数学	ABP基礎科目 基礎物理学／ ABP基礎科目 日本の歴史	ABP基礎科目 日本の地理

表２にオンライン授業の時間割を示す。オンライン授業は2.２で述べたように３つの形態のいずれかで実施された。授業ごとの実施形態は以下のとおりである。

(a)　Zoomによる双方向オンライン授業
ABP基礎日本語Ⅰ～Ⅹ
ABP基礎日本語科目は、ABP基礎日本語ⅤとABP基礎日本語Ⅶを除き、対面授業・オンライン授業に同じ教員を配置した。

(b)　静岡キャンパスで行われる授業を同時配信するハイフレックス型授業

ABP日本の歴史、日本のABP日本の地理、ABP日本の政治、ABP日本の経済、ABP基礎統計学、ABP基礎数学

(c) 課題・課題説明等をEmailで送り受講生は課題の期日までの任意の時間で学習をすすめるオンデマンド授業とZoomによる双方向オンライン授業の組み合わせ
ABP日本の社会

なお、ABP基礎物理学、ABP基礎化学、ABP基礎生物学はオンライン授業の受講生がいなかったため、オンライン授業は実施しなかった。

オンライン授業を実施するにあたり、担当教員と受講生の連絡方法としてSlackを導入した。Zoomが接続できなかったり途中で切れたりした場合や、急な欠席等の連絡方法を冗長化した。また、オンライン授業が途中で切れた場合に備え、Zoomで授業を録画した。

２．４　オンライン授業実施上の問題点

オンライン授業実施上の問題点は、担当教員側と受講生側の問題に大別できる。

担当教員側の問題点としては、オンライン授業に必要な機器の設置、ソフトウェアの使い方（Zoom）、対面授業の受講生とオンライン授業の受講生の間の情報共有、の３点があげられる。

表２　オンライン授業の時間割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１・２時限 8:40−10:10	ABP 基礎日本語IX (Zoom双方向)	ABP 基礎日本語Ⅴ (Zoom双方向)	ABP 基礎日本語IV (Zoom双方向)		ABP 基礎日本語Ⅹ (Zoom双方向)
３・４時限 10:20−11:50	ABP 基礎日本語Ⅲ (Zoom双方向)	ABP 基礎日本語Ⅱ (Zoom双方向)	ABP 基礎日本語Ⅶ (Zoom双方向)	ABP 基礎日本語Ⅰ (Zoom双方向)	ABP 基礎日本語Ⅷ (Zoom双方向)
５・６時限 12:45−14:15	ABP基礎科目 日本の経済 （ハイフレックス型授業）		ABP基礎科目 基礎統計学 （ハイフレックス型授業）	ABP 基礎日本語VI (Zoom双方向)	ABP基礎科目 日本の政治 （ハイフレックス型授業）
７・８時限 14:25−15:55			ABP基礎科目 基礎数学 （ハイフレックス型授業）	ABP基礎科目 日本の歴史 （ハイフレックス型授業）	ABP基礎科目 日本の地理 （ハイフレックス型授業）
９・10時限 16:05−17:35	ABP基礎科目 日本の社会 （Zoom双方向・オンデマンド授業）				

オンライン授業に必要な機器は、ノートパソコン、一眼レフデジタルカメラ（以下、単にカメラと記す）、三脚である。ノートパソコンとカメラのUSBケーブルによる接続、ノートパソコンとカメラの電源接続、カメラ・三脚の設置に慣れるまでコーディネーターがサポートをした。ソフトウェアの使い方の問題点は、Zoomの接続リンク先間違え、オンライン授業で利用するするカメラ（ノートパソコン内蔵のWebカメラと外付けの一眼レフデジタルカメラ）の切り替えの２点であった。対面授業の受講生とオンライン授業の受講生の間の情報共有の問題点は、カメラの視角外への板書、DVDメディアの教材（動画）の共有の２点であった。前者の問題は授業前に設置場所を確認することで改善された。後者は技術的な問題と共に著作権上の問題もあり、ハイフレックス型授業では利用するのをやめた。

受講生側の問題としては、突然の停電が現地で１回起こっただけで、インターネット回線の速度やソフトウェア上の問題等は特になかった。

２．５　各科目の内容

オンライン授業と対面授業とで学習内容を同一にするため、ABP基礎日本語科目は、2019年度から一部内容を変更した。2019年度に実施した科目のうち、オンライン授業と同一内容の授業を実施できないと判断した科目は、以下の４科目である。

• ABP基礎日本語Ⅰ（多読）、ABP基礎日本語Ⅲ（異文化理解）、ABP基礎日本語Ⅴ（アクティブ・ラーニング）、ABP基礎日本語Ⅷ（質問紙調査）

そのため、2019年度のABP基礎日本語Ⅰ（多読）を2020年度は新書通読に変更した。2019年度のABP基礎日本語Ⅲ（異文化理解）は、教室に受講生以外の人を呼ぶことができなかったため、2020年度は『留学生のためのケースで学ぶ日本語』（ココ出版）をテキストとしてABP基礎日本語Ⅶ（異文化理解）に変更した。ABP基礎日本語Ⅴ（アクティブ・ラーニング）とABP基礎日本語Ⅷ（質問紙調査）は教室外活動を前提としていたため、実施しなかった。代わりの科目として、日本語科目全体で精読の機会が少ないことから、『日本がわかる、日本語がわかる―ベストセラーの書評エッセイ24―』（凡人社）をテキストとして精読・文法・語彙を学習する機会とした。

上記の他、2019年度に実施したABP基礎日本語Ⅳの内容は、講義理解のための授業であったが、すでにABP留学生は日本語科目と並行して文型基礎科目・理系基礎科目の講義を受けていることから割愛した。他方、日本語科目全体としてプレゼンテーションの練習の機会が少なかったことから、ABP基礎日本語Ⅴの内容をプレゼンテーションに変更した。

以上の変更を施し、2020年度の日本語科目は表３のようになった。

表3　ABP基礎日本語科目授業内容変更一覧

	2019年度	2020年度
ABP基礎日本語Ⅰ	多読	新書講読
ABP基礎日本語Ⅱ	精読と発表	精読と発表
ABP基礎日本語Ⅲ	異文化理解	精読・文法・語彙
ABP基礎日本語Ⅳ	講義理解	精読・文法・語彙
ABP基礎日本語Ⅴ	アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
ABP基礎日本語Ⅵ	日本語文法	日本語文法
ABP基礎日本語Ⅶ	レポート作成	異文化理解
ABP基礎日本語Ⅷ	質問紙調査	発音
ABP基礎日本語Ⅸ	漢字・語彙	漢字・語彙
ABP基礎日本語Ⅹ	発音	レポート作成

なお、2020年度のABP基礎日本語科目の詳細については、佐々木・高橋（2020）[注1]を参照されたい。

ABP文型基礎科目・ABP理系基礎科目の内容は以下のとおりである。

- ABP日本の社会

目　　標：日本の社会、文化、生活など幅広いテーマに関して必要な情報を探し、得た情報から自分なりの観点で日本社会のあり方や日本人の考え方について考察する力を身に付ける。

学習内容：毎回、授業のテーマに関連した新聞記事と統計資料を読み、日本社会の状況を理解し、その裏にある歴史的背景や人々の価値観について話し合う。

教　　材：なし

- ABP日本の歴史

目　　標：日本の歴史の大まかな流れを把握するとともに、基礎的な知識を習得する。また各時代の文化や、東南アジア史との比較を通して、日本の歴史についての興味・関心を高める。

学習内容：日本の古代～現代まで、講義を行う。また、時代ごとの東南アジアの（留学生の）自国の歴史等について、受講生が発表を行う。

教　　材：なし

- ABP日本の地理

目　　標：日本の国土及び地理的特徴を理解し、各地域の歴史的背景や気候・位置的条件を含めて、日本地理についての正しい知識を身につける。

内　　容：北海道から沖縄までの日本の地理的環境や各地域の特色、県庁所在地などを学習する。

教　　材：『中学校社会科地図』（帝国書院）

• ABP日本の政治
目　　標：日本の政治制度の仕組み、特徴等を学習し、今後の課題、世界での日本の役割期待を考える。
内　　容：日本の政治制度の歴史、特徴を知り、仕組みがわかるようになる。また、少子高齢化、気候変動など地球規模の問題への取り組みについて学ぶ。
教　　材：『2020 新政治・経済資料　三訂版』(実教出版編修部)
• ABP日本の経済
目　　標：日本経済の発展要因を理解したうえで、日本人の幸福感、世界での日本の役割期待を考える。
内　　容：日本経済発展の歴史とその発展の背景を学び、経済の国際化と「日本的経営」を理解する。また、マネー意識、勤労観、地方経済について理解する。
教　　材：『2020 新政治・経済資料　三訂版』(実教出版編修部)
• ABP基礎数学
目　　標：大学で学ぶために必要な、数学の入門的知識が理解できるようになることを目標とする。
内　　容：数学の基本的な概念について学習する。演習問題で講義の内容理解の確認を行う。
教　　材：なし
• ABP基礎物理学
目　　標：大学の理系で学ぶために必要な高校レベルの「物理の基礎知識」を習得し、大学の物理教育の準備をする。基礎的な物理法則を数学的に理解し、その物理法則の応用を数学的に解けるようになる。
学習内容：物理学は自然科学の中でもっとも基礎的な学問の1つであり、自然界で起こっている現象がどのように理解されるのか、自然界を支配する根本原理が何なのかを問う学問である。この科目では、「力学」、「熱・統計力学」、「波動」、「電磁気学」の考え方と、「物質を構成している原子・分子」について学ぶ。
教　　材：『基礎物理学第4版』(学術図書)
• ABP基礎化学
目　　標：化学の基礎を理解することにより、日常生活において化学的な観点や思考を養う。
内　　容：原子や分子の構造と化学的性質がどのように関係しているかを学習する。また、熱や電気といったエネルギーの生成を化学反応の観点から理解する。
教　　材：『基礎コース　化学』(東京化学同人)
• ABP基礎生物学
目　　標：多様な文化や教育を背景とする留学生を対象に、生命科学の基本を「生命をどのように捉えるか」というの視点から、日本語によって知識を整理し、理解を進める。
内　　容：生命をどのようにとらえるか、を⑴生命は何をしてきたか、を地球環境の中での35億年の進化を考え、⑵生命活動の基本であるエネルギー生産の生化学

や遺伝子を理解するための基本を押さえ、⑶細胞レベルで生命活動を整理し、⑷現在の多様な、そして変わりつつある環境の中でどのような生命活動が行われているかを学び、考える。

教　　材：なし

• ABP基礎統計学

目　　標：大学で学ぶために必要な、統計学の入門的知識を身につけることを目標とする。

内　　容：統計の基本的な概念について学習する。演習問題で講義の内容理解の確認を行う。

教　　材：『らくらく統計学』（ムイスリ出版）

３．浜松キャンパスにおける初学期教育について

３．１　受 講 者

ABP6期生８名の所属学部は以下のとおりである。

工学部・機械工学科１名
工学部・電子物質科学科１名
工学部・数理システム工学科１名
工学部・電気電子工学科１名
工学部・科学バイオ工学科２名
情報学部・情報科学科２名
（ベトナム国籍７名、インドネシア国籍１名）

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い渡日が遅れた学生１名は、浜松キャンパスで行われた授業にZoomを用いてリアルタイムで参加した。日本語科目及び理系基礎科目について同様の対応を行った。実施方法としては、対面授業が行われている教室内にパソコンを設置し、Zoomを通して、ハイフレックスで在外の学生が参加するというものである。パソコン周辺機器を整えることで、上記のようなZoomを併用した対面授業の実施が可能となった。学生及び教員とリアルタイムでのやり取りが活発に行われ、授業活動も滞りなく進んでいた。今後、このようなZoomを併用した対面授業を活用し、柔軟な授業実施のあり方を検討していきたい。なお、本学生は、約２ヶ月後に無事渡日ができ、教室での対面授業に合流した。

３．２　時 間 割

時限	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１・２時限 8:40−10:10					ABP 基礎統計学
３・４時限 10:20−11:50	ABP 基礎日本語Ⅳ	ABP 基礎物理学	ABP 基礎化学	ABP 基礎生物学	ABP 基礎数学
５・６時限 12:45−14:15	ABP 基礎日本語Ⅵ	ABP 基礎日本語Ⅶ	ABP 基礎日本語Ⅷ	ABP 基礎日本語Ⅸ	ABP 基礎日本語Ⅹ
７・８時限 14:25−15:55	ABP 基礎日本語Ⅰ	ABP 基礎日本語Ⅱ	ABP 基礎日本語Ⅲ		ABP 基礎日本語Ⅴ

３．３　各科目の内容

• ABP基礎日本語Ⅶ，Ⅹ（作文）（週２コマ×15週）

目　　標：中級レベルの文章表現を学び、レポート作成に必要となる基本的スキルを習得する。

内　　容：所属する学部や静岡県に関する内容を扱った本学オリジナルの教材を使用しながら話し言葉と書き言葉の違いや、引用の仕方、グラフの読み取りと説明の仕方などを学ぶ。

教　　材：オリジナル教材

• ABP基礎日本語Ⅰ，Ⅴ（プロジェクトワーク）（週２コマ×15週）

目　　標：プロジェクトワークを通して、口頭発表や意見交換ができるようになる。

内　　容：学生にとって身近な社会文化的なテーマを取り上げ、様々な課題に取り組む。教室内外の結びつきを重視したインタビュー調査や国際交流イベントの企画なども実施する。

教材：オリジナル教材

• ABP基礎日本語日本語Ⅵ，Ⅷ，Ⅸ（文法・読解）（週３コマ×15週）

目　　標：講義やレポート作成、学生生活で必要となる表現を学ぶ。

内　　容：速読や精読を通して、中上級レベルの文法、語彙、漢字を習得する。

教　　材：『学ぼうにほんご！中上級』（専門教育出版）、配布資料

• ABP基礎日本語Ⅳ（語彙）（週１コマ×15週）

目　　標：講義の受講に際し必要となる表現や語彙の使い方を理解する。

内　　容：基礎日本語Ⅵ，Ⅷ，Ⅸの内容をさらに発展させた応用的な表現を学ぶ。

教　　材：『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解［上級］』（東京外国語大学留学生日本語教育センター編著）、配布資料

• ABP基礎日本語Ⅱ（日本事情）（週１コマ×15週）

目　　標：少子高齢化、食糧問題等の様々なテーマを取り上げながら、日本の現代事情を理解することを目指す。

内　　容：現代日本に関する読み物、ニュース、グラフの読み取り等を通して、日本事情を学ぶ。また、社会問題に対して考察し、意見交換や発表を行う。

教　　材：『ライブ！現代社会2020』（帝国書院）、配布資料

• ABP基礎日本語Ⅲ（社会）（週１コマ×15週）

目　　標：公民分野、歴史分野、地理分野における基礎的な知識を習得することを目指す。

内　　容：日本国憲法・基本的人権・社会保障の仕組み（公民）、日本の歴史の流れと歴史上の人物や文学・建築（歴史）、地図の読み方や観光地（地理）などについて学び、日本への興味を深める機会を多く設ける。定期的に試験を行い、知識の定着を目指す。

教　　材：『ライブ！現代社会2020』（帝国書院）、配布資料

ABP理系基礎科目「ABP基礎数学」「ABP基礎物理学」「ABP基礎化学」「ABP基礎生物学」「ABP基礎統計学」については2.5を参照のこと。

注１　佐々木良造・高橋千代枝（2020）「アジアブリッジプログラムにおける日本語教育プログラムの総合的な検討：2020年度初学期教育の日本語科目を対象として」『静岡大学国際連携推進機構紀要第３号』pp1-13.

グローバルアジア特別教育プログラム（旧ABP副専攻）

比留間洋一

１．はじめに

ここでは、令和２年度後期の実施状況について報告する。本プログラムは「留学生とともに英語で学ぶ」点に特徴がある。そこで本年次の報告では、各授業を受講したABP留学生とその他の学生（大多数は日本国籍の学生）の人数を示すことにした。また、プログラム実施に係る特記事項として、修了研究履修者の２名が、就職活動等に活用するために「修了見込証明書」の発行を申請したことが挙げられる。なお、令和２年度後期の本プログラムへの履修登録者数とABP海外研修については前号（2020年度『静岡大学国際連携推進機構紀要第３号』）で報告したため、割愛する。

２．令和２年度後期のABP教養領域科目及びABP学際領域科目の受講者数と共修状況

表１、２のうち、ABP学際領域科目は、「Global Business Studies」と「東南アジアセミナー」の２科目である。この２科目の受講生が他よりも多い主な理由は、ABP留学生の必修となっているためである。

表１　令和２年度後期（静岡キャンパス）受講者数と共修状況

単位：名

科　目　名	担当教員	ABP留学生数	その他の学生数*	計
ABP-ENことばと表現	澤野亜美	8	17	25
ABP-EN法と社会	土生英里	1	3	4
ABP-EN 芸術論	久部和彦	0	5	5
ABP-EN生活の科学	原芳久	0	8	8
ABP-EN生命科学	DEO VIPIN KUMAR	2	1	3
ABP-JP東南アジアセミナー	比留間洋一	7	3	10
ABP-EN Global Business Studies	藤巻義博	14	6	20
計		32	43	75

*「その他の学生」の大多数は日本国籍の学生。

表２　令和２年度後期（浜松キャンパス）受講者数と共修状況　　単位：名

科　目　名	担当教員	ABP留学生数	その他の学生数	計
ABP-EN 現代の社会	渡部真理子	2	1	3
ABP-EN 芸術論	久部和彦	1	5	6
ABP-JP 地域の文化と歴史	比留間洋一	3	-*	3
ABP-EN 自然と物理	MOBEDI MOGHTADA	10	4	14
ABP-EN 進化と地球環境	宮崎さおり	17	3	20
ABP-EN Global Business Studies	藤巻義博	20	9	29
計		53	22	75

*留学生のみが履修可能。

３．ABP修了研究

令和２年度後期の修了研究の成果発表として、令和３年２月８日に以下の４名が英語でのプレゼンテーションを行なった。新型コロナ感染拡大対策として、オンラインで実施した。

令和２年度後期　修了研究

発表者	指導教員
情報学部／情報社会学科４年	機構教員　佐々木良造
情報学部／情報科学科３年	情報学部　山本泰生
工学部／電子物質科学科３年	機構教員　比留間洋一
人文社会科学部／経済学科３年	機構教員　比留間洋一

ABP入試

原　芳久

1．特　　長

1）母国での受験が可能
- オンラインによる出願手続き
- 現地で実施されるEJU及び英語資格試験を活用
- オンライン面接の実施

2）入学検定料無料

ABP入試は、社会の変革を担うイノベーション人材として成長し、グローバルに活躍できるための知識及び技能、コミュニケーション能力、積極的に学ぶ意欲を備えた学生の選抜を目的として実施されているが、その最大の特長は、出願から合格発表までのすべての手続きを受験者が母国にいながら進められることである。オンライン出願システムの活用により郵送中の出願書類の紛失や遅配などの不安を解消するとともに、受験票や合否判定結果の受取りも即時かつ確実に行えるしくみが確立している。入試管理者側も各受験者の出願手続きをリアルタイムで確認できることから、必要に応じた支援の手を適時に差し伸べることが可能となっている。またオンライン面接は、面接試験会場までの移動に伴う受験者の時間的、経済的な負担を軽減するばかりでなく、新型コロナのような感染症予防のとりくみとしても有効であると考えている。

2．概　　要

ABP入試は2015年度に開始され、毎年、通常の募集（11月出願、3月合格発表）及びこの入試で募集人員を満たさない場合に行う第2次募集（6月出願、8月合格発表）の2度の入試を実施してきた。開始間もない2015、2016年度においては、出願要件である日本留学試験（以下、EJU）の受験者が少ないことに配慮し、EJU未受験者及びEJUの成績要件に満たない者に対して代替試験を行った。代替試験は、過去のEJUを参考にABP入試独自の試験問題を作成し、教職員が対象4か国（インド、インドネシア、タイ、ベトナム）に出向いて実施した。この2年間のとりくみによりABP入試にEJUが必要であることが広く知られ、また同時期に現地におけるEJU受験者数も大きく伸びてきたことから、2017年度には代替試験を廃止した。これにより、代替試験の作成及び教職員の手による現地入試の実施も不要となった。

その後、官公庁や企業に籍を置きながら就学するしくみを取り入れたり（2017年度）、第一次選抜の「基準」としていた日本語能力を「目安」としたり（2019年度）、また新たにミャンマーを対象国に加える（2019年度）などのとりくみを通して、優秀な人材を幅広く募る工夫を続けている。

３．当該期間の入試実績

令和三年度学士課程入試　第１次募集（2020年11月出願）　（人）

	学　　部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
志望先別集計	人文社会科学部	31（－6）※	20（－2）	11（＋3）
	教育学部	0（0）	0（0）	0（0）
	情報学部	21（＋10）	17（＋8）	7（＋3）
	理学部	3（＋2）	3（＋3）	1（＋1）
	工学部	13（－1）	8（－2）	6（0）
	農学部	1（－3）	0（－1）	0（0）
	計	69（＋2）	48（＋6）	25（＋7）

	学　　部	出願者	第一次合格者	第二次合格者
出身国別集計	インド	0（0）	0（0）	0（0）
	インドネシア	10（＋1）	7（＋4）	6（＋3）
	タイ	5（＋3）	4（＋3）	1（＋1）
	ベトナム	54（0）	37（－1）	18（＋3）
	ミャンマー	0（－2）	0（0）	0（0）
	計	69（＋2）	48（＋6）	25（＋7）

※いずれの表も（　）内の数値は、令和二年度第１次募集と比較した人数の増減を示す。

※オンライン出願サイトへの登録者は168（＋28）人。

４．前年度入試からの改善及び本年度入試における工夫

新型コロナへの対応のため、昨年度、本年度と第二次選抜（面接試験）の実施方法を、対面式からオンライン式に変更している。面接試験員となる学部教員からは「可能であれば、直接会ってやりとりをしたい」旨の希望を少なからず聞いているが、公共交通機関で長時間移動することを余儀なくされる受験者の感染リスクを抑えることは、入試の実施者として配慮すべき点と考えている。実際に受験者の所属する日本語学校などから面接試験の実施方法についての問い合わせが複数件あり、「対面式の場合には面接を見送らせることも考えている」といった声も聞かれた。また令和二年度学士課程第２次募集においては、この「面接試験の実施方法変更のお知らせ（ABP Websiteでの公表）」を約３週間前に行ったが、本年度学士課程第１次募集においてはこれを４週間前とした。学士課程受験者は修士課程受験者と異なって自身のPCを持たない者も多く、所属する高校や日本語学校のPCを借りて受験する（オンライン面接に先立つ事前接続チェックも併せて行う）ための調整など、オンライン面接受験のための準備の時間が必要であると考えた対応である。

さらに今年度入試においては第２回EJUが中止の場合の対応や、通常の計画とは異なる日程で実施された英語資格試験（TOEIC®L&R及びTOEFL iBT®Special Home Edition）のいずれを有効と認めるかの判断など、新型コロナによる様々な変更にかかる情報収集と判断、またこれに基づく実践と、入試運営にかかる総合的な判断力と対応力を試される場面が多かったが、結果としてすべての入試手続きを問題なく完了することができた。